

鹿児島市都心部地区

(鹿児島県鹿児島市)

- 計画期間 平成18年度～22年度
- 面積 398ha
- 交付対象事業費 11,874百万円
- 市人口 604千人 (地区内人口28千人)

ポイント ホスピタリティあふれるかごしまの創造

地区概要 南の交流拠点都市の核として、ハード、ソフトの両面から、全ての人々をあたたかく迎える、消費者、生活者の視点にたったまちづくりを目指す。

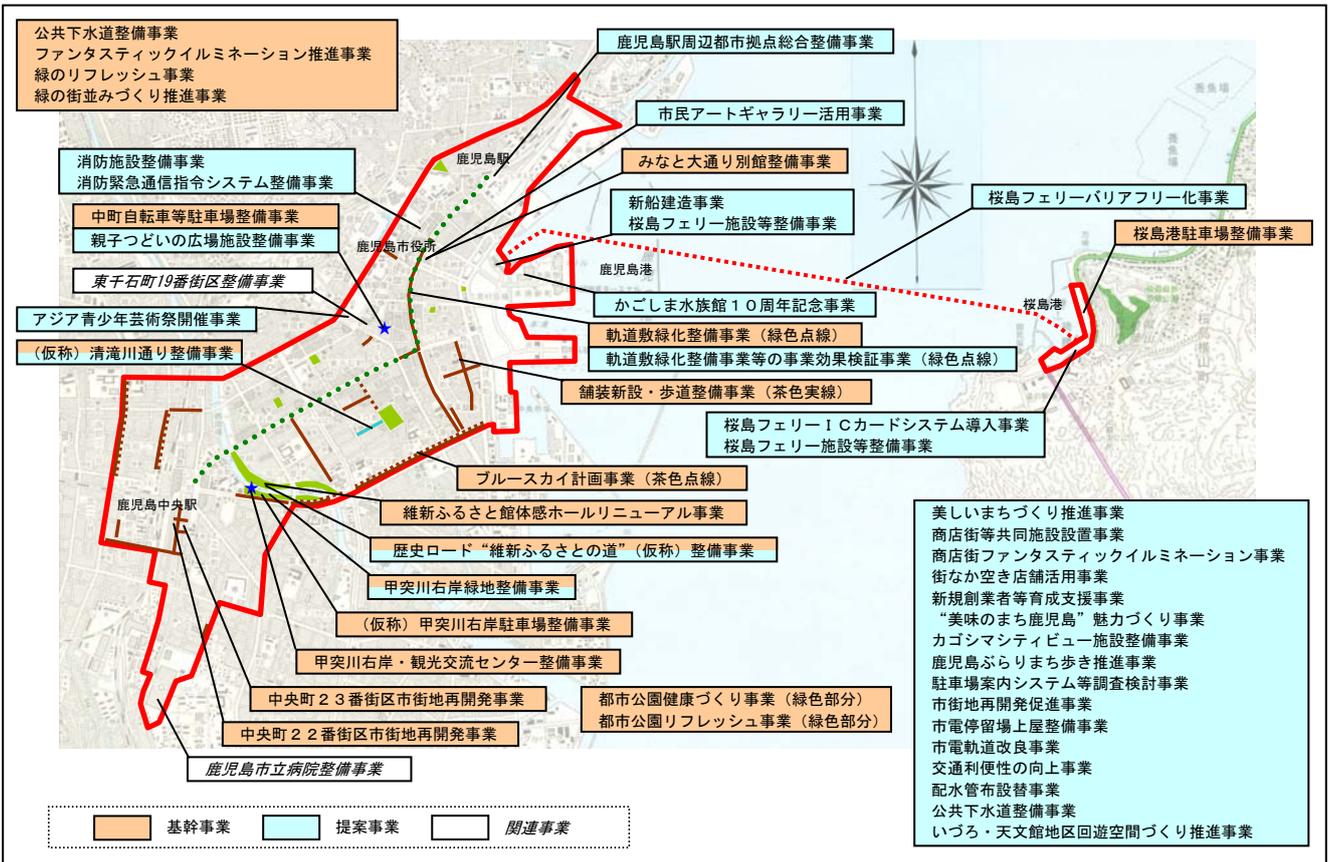
目標 ホスピタリティあふれる都心部の創造 魅力あるかごしまの創造へ
(観光・商業・交流でにぎわう“歓・交”拠点都市の創造)

指標 かがしまの魅力向上、安全で快適なまちづくり、官民が連携したにぎわいのあるまちづくりの達成状況を確認する指標とした。

宿泊観光客数	2,539千人/年 (H16)	→	2,970千人/年 (H22)
居住人口数	27,698人 (H17)	→	28,800人 (H22)
空き店舗率	6.0% (H16)	→	5.7% (H22)

事業内容

- 基幹事業 (7,704百万円) → 舗装新設・歩道整備事業 (延長6,308m)、都市公園健康づくり事業 (2箇所)、中町自転車等駐車場整備事業、ファンタスティックイルミネーション推進事業、軌道敷緑化整備事業、市街地再開発事業 (2箇所) ほか12事業
- 提案事業 (4,170百万円) → 親子つどいの広場施設整備事業、鹿児島ぶらりまち歩き推進事業、新船建造事業、軌道敷緑化整備事業等の事業効果検証事業ほか28事業



地区の現況と課題

本市の中心市街地である本地区は、これまでの長い歴史のなかで、各種商業機能、文化・アミューズメント機能、オフィス・官公庁等の中枢管理機能などさまざまな高次都市機能が集積し、南九州随一の繁華街、魅力ある都心部として本市の発展に重要な役割を果たしてきた。

しかしながら、交流機会の拡大や地方分権の進展など、今後、ますます激化する都市間競争のなか、平成23年春の九州新幹線全線開業に向けて、本市がさらに発展していくため、その核となる都心部において、個性的で魅力あるまちづくりを進めることが喫緊の課題となっている。

提案事業の特徴

軌道敷緑化整備事業等の事業効果検証事業

市電の軌道敷緑化や軌道改良による事業効果を検証。

⇒ その後、軌道敷緑化整備事業（基幹事業）により、鹿兒島中央駅～鹿兒島駅間の軌道敷緑化を実施。

新船建造事業

市街地と本市の代表的な観光資源である桜島を結ぶ桜島フェリーについて、一般旅客定期航路のほか、納涼観光船としての利用など、観光振興を主目的とする新船を建造。

親子つどいの広場施設整備事業

子育て中の親の負担感の軽減や、地域の子育て支援機能の充実を図るために、主に乳幼児をもつ親とその子供が気軽に集い交流を図り、育児相談、子育てに関連する情報交換を行う広場を整備。

鹿兒島ぶらりまち歩き推進事業

市民や観光客に対し、気軽に歴史探訪を楽しめるように付加価値の高い観光コースを提供するとともに、「かごしまボランティアガイド」の解説を受けながら、気軽にまち歩きを楽しめる環境を整備。

計画策定プロセス

「民間事業掘起こしワークショップ」の開催

都心部の商店街振興組合等からなるワークショップを開催し、この中で出された意見を事業化するなど、民間事業と連携した計画とした。

民間の継続的なまちづくり活動の推進

本市の都市拠点である鹿兒島中央駅及び鹿兒島駅の周辺においては、地元住民等の参加によるワークショップを開催し、民間事業の掘起こしの検討を行っている。

鹿兒島市長 森博幸のコメント

本市都心部地区におきましては、平成23年春の九州新幹線全線開業を見据え、ホスピタリティあふれ、魅力あるまちづくりをコンセプトに、中心市街地の活性化に向けた様々な事業に取り組んでいます。今回の受賞を励みに、国内はもとより、アジアの人たちにも魅力ある観光都市づくりを進めるとともに、多くの人々が安心して暮らし楽しむことができる、にぎわいのある鹿兒島ならではのまちづくりを、さらに積極的に推進してまいりたいと考えています。

▼軌道敷緑化整備事業



▼新船建造事業



▼甲突川右岸・観光交流センター整備事業



▼中央町23番街区市街地再開発事業



▼親子つどいの広場施設整備事業



▲鹿兒島ぶらりまち歩き推進事業